

(社)日本原子力学会
第17回倫理委員会議事要旨

日 時 H16.11.19(金)10:00~13:00
場 所 東京大学駒場リサーチキャンパスD棟第1会議室
出席者 西原、宅間、班目、安藤、小沢、鐘ヶ江、作田、鳥飼、中安、萩原、別府、
松尾、矢野の各委員(13名)

配布資料

- 資料 17 - 1 第16回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 17 - 2 倫理規程見直し
- 資料 17 - 3 2005年春の年会 企画セッション提案書
- 資料 17 - 4 東京電力の対応に関する評価検討状況
- 資料 17 - 5 第2回「原子力に関する倫理研究会」の取り纏め状況
- 資料 17 - 6 六ヶ所村での意見交換会の記録
- 資料 17 - 7 教育支援サイト「ニュークパル」での倫理委員会活動紹介
- 資料 17 - 8 SUGIMOTO Jun のウィーン便り
- 資料 17 - 9 第3回「原子力に関する倫理研究会」
- 資料 17 - 10 技術倫理協議会(第3回)
- 参考資料 17 - 1 ANSとAESJの倫理活動/規程についての比較
アメリカ原子力学会倫理規程、日本原子力学会倫理規程
- 参考資料 17 - 2 2004年9月11日の新聞切抜(東奥日報、デーリー東北)
- 参考資料 17 - 3 「地域・大学・広報」(雑誌 広報2004年11月号から)

議事

1. 資料17-1に基づき前回議事要旨を確認した。
2. 班目幹事から資料17-2に基づき倫理規程改訂の進捗状況の紹介があった。アンケートによる意見交換により倫理規程前文と憲章についてはほぼ検討が終了したこと、今後は行動の手引の検討に移ること、まず手引の条文の検討をした後に手引の前文を検討すること、その後の作業として用語集の検討や意見提出者への回答文の検討が必要なことなどが説明された。春の年会までに行動の手引までの修文を終了させ、年会で改訂案を説明することを目標に作業を進めることとした。
3. 資料17-3に基づき安藤委員より春の年会倫理委員会企画セッションの説明があった。座長は小沢委員が務め、倫理委員会の活動報告は安藤委員が、倫理規程改訂作業状況については班目幹事が報告することとした。会員との意見交換では支部の長や幹事に支部からの意見を発言してもらおうべく、あらかじめ依頼することとした。また、部会や専門委員会の長や幹事にも参加を呼びかけることとした。年会企画については班目幹事、安藤委員、小

沢委員で担当することを確認した。

- 4 . 資料 17 - 4 に基づき安藤委員より東電問題のフォロー状況が説明された。今後、東電幹部へのインタビューや福島第一発電所でのヒアリングを計画していることが紹介された。地元の方へのインタビューには地方自治体の方も含めたらどうかというコメントがあった。東電幹部、福島第一両方のインタビューに安藤委員のほか作田委員、松尾委員、別府委員も協力することとした。なお、インタビューにどのような内容を盛り込むべきかについては、各委員が意見を安藤委員に連絡することとした。
- 5 . 資料 17 - 5 に基づき安藤委員から第 2 回原子力に関する倫理研究会の報告書が完成した旨の説明があった。報告書は 500 部印刷し、約 400 部を 1 冊 1000 円で頒布する予定である。なお、定価を印刷したほうが企業は購入しやすいのではないかという意見があったが、出版会計でなく一般会計で非課税の枠内で処理していることとの関係もあるので今後さらに検討することとした。
- 6 . 資料 17 - 6 に基づき安藤委員から六ヶ所村で開催した地元の方との意見交換会の記録の説明があった。これは日本原燃の方が作られた記録の要約版であり、北村委員による発話の分析が加えられている。関連して参考資料 17 - 3 の説明が萩原委員からあった。六ヶ所村での開催は有益であったという認識では委員全員の一致をみたが、定期的に六ヶ所村で開催するのは困難であり、今後どうするか慎重に考えていくこととした。
- 7 . 原子力文化振興財団の教育支援サイト「ニュークパル」での倫理委員会の活動を資料 17 - 7 の形で紹介することに対し、基本的には了承することとした。ただし、マンガのサッカーのレフェリーの発言は「レッドカードもありますよ」とすべきとの意見、学会のホームページと誤認しないような配慮をすべきとの意見を伝えることとした。
- 8 . 佐竹委員が倫理委員を辞任したいとの申し出があったことの報告があり、了承した。委員会としては東京電力から引き続き委員を出していただくことを希望することとなり、班目幹事が東京電力や理事会と連絡をとることとなった。
- 9 . 杉本元委員のウィーン便り(資料 17 - 8)を倫理委員会のホームページの下におくことを了承した。
- 10 . 資料 17 - 9 により第 3 回原子力に関する倫理研究会の内容を確認した。
- 11 . 資料 17 - 10 により第 3 回技術倫理協議会の報告があった。関連して西原委員長から日本工学アカデミーが取りまとめているアジアの倫理綱領の現状の紹介があった。
- 12 . 参考資料 17 - 1 により A N S と日本原子力学会の倫理規程の比較結果の紹介があった。A N S の規程にあって日本原子力学会の規程にない項目のうち、倫理的問題への取り組み宣言や他者の批判の受け入れなど、日本原子力学会の規程への取り入れを考えてもいいものもあり、今後議論する行動の手引への取り込みを中心に検討していくこととなった。なお、かつて倫理規程に不採用とした条文の中にも現時点で見直せば採用すべきものがあるかもしれないので、適当な機会にこれまでの変遷を振り返ってみることとした。
- 13 . 次回は 1 月 28 日午後開催することとした。